

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	西村 紀子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。			

《授業の概要》

基礎文法の復習を行い、英文法の知識を確立する。  
CDを使ったフレーズ練習により、英語の音や日常会話での表現を学び、抵抗なく発話する力を身につける。  
毎回語彙テストを行い、語彙を増やすことを心掛ける。

《教科書》

プリント配布

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

期末試験のフィードバックは希望に応じて行います。

《授業の到達目標》

英語 で学んだ基礎文法を応用して活用できるようにする。  
基礎文法をさらに学び、日常の身の回りの事柄について、自分の言葉で発話できるようにする。

《成績評価基準》

基礎文法の応用力が身についているか。  
身の回りの事柄について、自分の言葉で発信し説明できるか。  
応用に必要な基本的語彙が身についているか。

《成績評価の方法》

筆記試験 30% レポート - %  
課題 - % 実技 - %  
授業の取組 35%  
その他(提出物) 35%

《参考図書》

「英会話の基本文型 8 7」

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	講座概要と英語基本文型について	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
2	to不定詞(名詞、形容詞、副詞的用法)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
3	比較(原級、比較級、最上級)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
4	受動態	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
5	受動態演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
6	現在完了形(完了、経験、継続)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
7	現在完了形(完了、経験、継続)演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
8	現在分詞	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
9	過去分詞	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
10	現在分詞・過去分詞演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
11	関係代名詞(主格)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
12	関係代名詞(目的格)	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
13	関係代名詞演習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
14	後期学習内容の総復習	予習：課題語彙(30分) 復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)
15	後期学習内容の理解確認	復習：学習した項目の整理・応用問題(30分)

《基礎科目》

科目名	健康スポーツ論				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	講義	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

近年の健康ブームから、スポーツ活動の現状と活動意義、効果を学びながら、発育発達段階から加齢による身体的能力の変化を理解するとともに、指導者として運動者ニーズに応えられる知識および指導理論を身につけ、子どもから中高齢者までの各ライフステージに適した健康スポーツの方法論や注意点について学ぶ。また、これらの知識や理論をもとに運動プログラムの作成ができるようになる。

《授業の到達目標》

「スポーツを通じた健康づくり」という社会的ニーズが高まる中で、幅広い世代のスポーツライフを支えるスポーツ・健康運動指導者になるための必要な理論と指導のための基礎的知識について理解することができる。また、具体的にそのスポーツ・運動が取り入れられ、それがどのような効果をもたらしているのか考察することができる。安全で効果的なスポーツ・運動の方法と効果、留意点を理解できるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験 100%

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康体力づくり事業財団  
「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

まとめの試験では1問1点、100問の100点満点で評価します。形式は○×問題です。解答解説は試験後に行います。

《成績評価基準》

幅広い世代のスポーツライフを支えるスポーツ・健康運動指導者になるための必要な理論を理解するとともに、指導者としての基礎的な知識および運動・スポーツの特性をまとめておく。また、各運動・スポーツを指導する上で最重要とされる安全の確保についても理解できる。

《参考図書》

「年齢に応じた運動のすすめ」宮下充正、杏林書院  
「運動処方としての水泳・水中運動」出村慎一監修、杏林書院

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	健康のためのスポーツ	競技スポーツを除き、健康体力づくりのためのスポーツを考察しておく(1時間) 健康スポーツについて学んだ内容を復習しておくこと(3時間)
2	発育発達と運動能力	成人へと発育段階における身体的特徴と運動能力の変化を考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	加齢にともなうカラダの変化	成人後の加齢に伴う身体的特徴について考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
4	加齢にともなうカラダの変化	成人後の加齢に伴う身体的特徴について考え、まとめておくこと(2時間) 授業で学んだ内容を復習し、まとめておくこと(2時間)
5	加齢とトレーニング	加齢に伴うトレーニングの目的と意義を考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
6	中高年の健康スポーツ	身体活動の必要性、最低限の体力の必要性を考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	運動の種類	健康づくりのための運動には何があるのかを考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	運動の種類	健康づくりのための運動には何があるのかを考え、特性をまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	運動プログラムの設定	経験した運動プログラムと照合し、健康づくりのためのそれを考察しておく(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	ウォーキング	ウォーキングの特性について考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	ジョギング	ジョギングの特性について考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	水泳・水中運動	水泳・水中運動の特性について考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
13	エアロビックダンス	エアロビックダンスの特性について考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	ストレッチ・レジスタンス運動	ストレッチ・レジスタンス運動の特性について考え、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	まとめ	まとめの試験を行いますので、これまでの内容を予習しておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	生涯スポーツ論				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

現代社会の要求に応えるべく、生涯スポーツの理論を学習します。具体的には、生涯スポーツの背景と理念、スポーツマネジメント、総合型地域スポーツクラブについて学んでいきます。

《教科書》

「Reference Book」（公財）日本スポーツ協会  
「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目」（公財）日本スポーツ協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は全体発表をした後に、評価・フィードバックをした上で返却します。

《授業の到達目標》

- 1．生涯を通して身体を動かすことの必要性を知る
- 2．国内外のスポーツ普及活動とスポーツ事業のプロモーションについて学び、将来多くの方の生涯スポーツをサポートできるようにする
- 3．生涯スポーツに関する情報が収集できる

《成績評価基準》

- 1．授業の内容を踏まえ、生涯スポーツの理念や必要性について説明することができる
- 2．授業の内容を踏まえ、かつ事例をもとに事業計画を策定することができる
- 3．収集した情報について要点をまとめ、人に分かりやすく伝えることができる

《成績評価の方法》

筆記試験 50％  
課題 20％  
授業の取組 30％

《参考図書》

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	生涯スポーツとは	生涯スポーツについて、自身の考えをまとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
2	地域スポーツにおけるスポーツ振興方策	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
3	スポーツ行政組織のしくみ	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
4	地域スポーツクラブの機能と役割	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
5	日本の生涯スポーツ施策	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
6	世界の生涯スポーツ施策	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
7	総合型地域スポーツクラブの育成と運営1	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
8	総合型地域スポーツクラブの育成と運営2	総合型地域スポーツクラブについて調べ、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
9	総合型地域スポーツクラブの育成と運営3	総合型地域スポーツクラブについて調べ、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
10	スポーツ組織のマネジメントとマーケティング1	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
11	スポーツ組織のマネジメントとマーケティング2	事業計画書(ビジネスプラン)について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
12	スポーツ組織のマネジメントとマーケティング3	事業計画書(ビジネスプラン)について考え、まとめる(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
13	スポーツ事業のプロモーション	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
14	女性とスポーツ	教科書の該当範囲を読む(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)
15	まとめ	これまでの授業内容を復習する(2時間) 今回の授業内容の復習(2時間)

《専門科目》

科目名	労働衛生学				
担当者氏名	中尾 由美				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

働く人たちの安全と健康を守る基本的な知識を習得する。特に労働衛生3管理や5管理について理解することができる。  
働く人たちと事業者に対して安全と健康に働くことがどのように行われているか、講師の経験を取り入れた、現場の活動を含めた内容とする。

《授業の到達目標》

- ・働く人たちの健康と労働環境の関係を理解することができる。
- ・働く人たちの健康保持、増進のための健康支援や労働環境などの改善などの手法や知識を習得することができる。
- ・国家試験第1種衛生管理者試験の問題を解くことができる。

《成績評価の方法》

レポート 50%  
授業の取組 50%

《教科書》

労働衛生のしおり（最新版）：中災防編

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

レポートのフィードバックは講評する。  
レポート内容は講義中に開示する。提出状況や内容を確認する。

《成績評価基準》

授業の取り組み50%、レポート50%で評価する。

《参考図書》

産業保健ハンドブック：森晃爾：労働調査会  
中災防編：衛生管理者試験問題集

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	労働衛生とは、労働衛生統計	予習：シラバスを熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
2	労働衛生の現状	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
3	労働衛生の現状 労働衛生の概要	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
4	第13次労働災害防止計画の概要	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
5	第13次労働災害防止計画の概要	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
6	最近の労働衛生対策の展開 労働衛生管理の基本	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
7	最近の労働衛生対策の展開 労働衛生管理の基本	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
8	最近の労働衛生対策の展開 健康確保対策2	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
9	職業性疾病预防対策その1 作業環境測定について	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
10	職業性疾病预防対策その2 保護具について	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
11	職業性疾病预防対策その3 有害業務対策	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
12	職業性疾病预防対策その4 局所排気措置	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
13	職業性疾病预防対策その5 化学物質	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
14	まとめ	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)
15	総括	予習：次の授業内容について教科書を20ページ分熟読する。(2時間) 復習：授業で学んだ内容を各自整理しておく(2時間)

《専門科目》

科目名	レクリエーション活動援助法				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

レクリエーションの指導者に求められる資質は、「コミュニケーション能力」である。この能力を高めるためには「ホスピタリティ」や「アイスブレイキング」、「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」の総合学習を実践で行う。この授業は、「レクリエーション・インストラクター」資格取得のための指定科目である。

《授業の到達目標》

援助法 B で学習した基礎レベルよりもさらに円滑なコミュニケーション能力および指導能力を備えられるように、多くのレクリエーション活動を通して、人々の心を元気にするための支援と指導理論、指導方法を考察し、指導現場に活かすことができるようになる。また、指導者として前に立つ機会やレクリエーションのイベント参加を増やし、指導の知識と技術を身につける。

《成績評価の方法》

レポート 30%  
課題 60%  
授業の取組 10%

《教科書》

「楽しさをとおした心の元気づくり」（公財）日本レクリエーション協会、「レクリエーション支援ハンドブック」（NPO 福岡県レクリエーション協会）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

各イベントや指導ごとに振り返り、問題・改善点を提示・提案し、個人への課題については評価をして返却する。そして、指導実践の中で振り返ってもらう。

《成績評価基準》

参加者としてイベントに必要な事項を考察でき、指導スタッフの立場で準備すべき計画をもとにまとめ遂行できる。また、円滑なコミュニケーション能力および指導能力を指導現場に活かすことができる。

《参考図書》

適宜プリントを配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション、イベント年間計画	1年次で学習した理論をもとに年間計画を立て行事の役割を考えておく(1時間) 計画を振り返り指導者としての役割を自覚してまとめておくこと(3時間)
2	福岡市スポーツフェスタの参加計画	ホスピタリティを再考し、体験学習の企画・立案をしておくこと(2時間) 今回の授業で学習したことを振り返え、まとめておくこと(2時間)
3	福岡市スポーツフェスタの参加計画	プログラムの流れと役割の準備をしておくこと(2時間) 指導計画をまとめて、振り返り本番に備える準備をしておくこと(2時間)
4	福岡市スポーツフェスタについて	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと(2時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(2時間)
5	福岡市スポーツフェスタについて	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと(2時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(2時間)
6	「秋の公園であそぼう」レクイベント	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと(2時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(2時間)
7	「秋の公園であそぼう」レクイベント	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと(2時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(2時間)
8	福岡市障がい者スポーツ大会について	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと(2時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(2時間)
9	福岡市障がい者スポーツ大会について	イベント概要を考え、役割分担などの詳細をまとめておくこと(2時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(2時間)
10	ウォークラリー体験	概要および目的を考え、まとめておくこと(2時間) 体験をもとに自らが作成する立場を想定し、復習しておくこと(2時間)
11	ウォークラリーコマ図づくり	コマ図と実際のコースを模擬行動しておくこと(2時間) コマ図の表し方を振り返って作成しておくこと(2時間)
12	ウォークラリー体験	作成したコマ図を再考し、模擬行動しておくこと(2時間) 学生作成のコマ図について振り返り、復習しておくこと(2時間)
13	クラフト(クリスマスリースづくり)	作品の完成品をイメージしたり資料を収集しておくこと(2時間) 完成品をイメージして材料の収集に努めること(2時間)
14	クラフト(クリスマスリースづくり)	資料を模してイメージした完成品になるように準備しておくこと(2時間) 作品の作業過程を振り返り、次回に活かせるようにまとめておくこと(2時間)
15	クラフト(ポップ表示づくり)まとめ	仕上げの手順をイメージし、完成できるよう準備しておくこと(2時間) これまでに学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	キッズスポーツ指導演習				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

主にキッズスポーツフェスティバルでの企画立案、指導を行います。冠婚葬祭や就職活動等以外の欠席は履修放棄とみなし、その後一切の授業参加を認めず単位認定を行いません。事情により欠席する場合は必ず教員およびグループのメンバーへ事前連絡を行うこと。リハーサル及びイベント当日では学科指定ジャージ、靴を着用し、身だしなみを整えること。履修者は楽動塾に1回以上参加すること。

《授業の到達目標》

- 1. 幼児を対象とした楽しく安全な運動・スポーツについて、企画立案・指導ができる
- 2. 幼児体育指導の場にふさわしい立ち居振る舞い・コミュニケーション力が身についている

《成績評価の方法》

筆記試験 20% レポート 20%  
課題 50% 実技 50%  
授業の取組 30% その他 ( ) %

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出物は評価・フィードバックをした上で後日返却します

《成績評価基準》

- 1. キッズスポーツフェスティバルにおいて安全性を配慮した上で子どもたちに運動の楽しさ・喜び・達成感が実感できる運動を指導する
- 2. 幼児体育指導の場にふさわしい姿勢で毎授業に参加する
- 3. リハーサルおよびキッズスポーツフェスティバル、楽動塾に関連して指示するレポート課題を提出する

《参考図書》

公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト、日本スポーツ協会リファレンスブック、

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	他授業で学んだ子供の運動指導に関する内容を振り返る(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	指導実践	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	子どもへの運動指導上の留意点、安全管理	安全管理について調べてまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	指導実践	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	指導プログラムの作成	指導プログラムについて考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	リハーサル	リハーサルに向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・リハーサルを振り返り、反省点や改善点をまとめる(30分)
7	リハーサル	リハーサルに向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・リハーサルを振り返り、反省点や改善点をまとめる(30分)
8	イベント最終準備	イベントに向けて各自の役割を進める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	指導実践	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	指導実践	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	指導内容の振り返り	自身の指導内容を振り返り、まとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	指導実践打ち合わせ	指導実践の内容を考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	指導実践	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	指導実践打ち合わせ	指導実践の内容を考える(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	指導実践	当日に向けて用具の準備や指導の練習を行う(30分)・今回の授業内容の復習(30分)

《専門科目》

科目名	ジュニアスポーツ指導員特講				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

ジュニアの発育発達に伴う身体的・精神的変化を中心に、日常生活から身体活動、スポーツ活動、コーチングに関して学習する。また、専門科目の試験のために練習問題や過去問を解き、振り返りながらより理解を深める。  
日本スポーツ協会公認資格「ジュニアスポーツ指導員」専門科目の対策講座です。

《教科書》

「公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト」日本スポーツ協会編集発行

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

適宜、練習問題および過去問を解きながら、正答できるまで繰り返しフィードバックする。

《授業の到達目標》

ジュニアスポーツ指導員として理論編・実技編・実習編に分け、それぞれの内容を考えながら理解することを目指します。理論編ではジュニアに関わるすべての側面をスポーツの現場に応用し、実技編ではボランティア活動やジュニア対象イベントで体験したことを理論に置き換え、実習編では理論や実技を踏まえ、総合的論理的に理解することができる。

《成績評価基準》

ジュニアのスポーツ指導員として必要な知識や指導理論を学習する中で、専門科目の筆記試験に合格できるような基準で評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 100% レポート %  
課題 % 実技 %  
授業の取組 %  
その他 ( ) %

《参考図書》

適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ジュニアスポーツ指導員の概論	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	コーチング	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	コーチング	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	体力	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	動きの発達	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	心理と発達	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
7	スポーツ医学	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
8	スポーツ医学	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	女性とスポーツ	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	運動遊び・スポーツ	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	実習プログラムの作成、実践、評価	テキストの指定範囲を読む(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	過去問対策	自分の苦手分野を復習する(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	過去問対策	自分の苦手分野を復習する(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	過去問対策	自分の苦手分野を復習する(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	まとめ	これまでの授業内容を振り返る(30分)・今回の授業内容の復習(30分)

《専門科目》

科目名	リハビリテーション論				
担当者氏名	田村 有深歩				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

実務経験として日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーや鍼灸師の資格を有し競技選手のトレーナーとして活動する教員がリハビリテーションの理念や目的、障がいについてスライドを用いて講義を行う。  
リハビリテーション計画立案の演習を行う。

《教科書》

無し

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

評価や解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

- ・リハビリテーションの概念と目的を学び、アスレティックリハビリテーション計画を立案することができる。
- ・障がいの概念と各種障がいについて説明することができる
- ・医学的リハビリテーションの流れと関係職種、評価法、治療法について説明することができる
- ・教育的、職業的、社会的リハビリテーションを理解し、その中でスポーツ指導者としての関わりを見出すことができる

《成績評価基準》

筆記試験と受講態度で評価をする。  
受講態度は配布物への記入や、講義内容をメモするなど、積極的に授業に参加しているかどうかを評価する。

《成績評価の方法》

筆記試験 80%  
授業の取組 20%

《参考図書》

Reference Book (公財) 日本スポーツ協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	リハビリテーションの理念と目的	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
2	リハビリテーションの範囲	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
3	障がいの概念	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
4	各種障がい(脳性麻痺・脳血管疾患後遺症)	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
5	各種障がい(脊髄損傷)	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
6	各種障がい(高齢者の障がい・その他)	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
7	各種障がい(視覚・聴覚・精神機能障がい)	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
8	医学的リハビリテーション1	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
9	医学的リハビリテーション2	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
10	地域リハビリテーション	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
11	教育的・職業的・社会的リハビリテーション	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
12	アスリハとリハビリ計画1	予習：アスレティックリハビリテーションについて調べておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
13	アスリハとリハビリ計画2	予習：アスレティックリハビリテーションについて調べておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
14	アスリハとリハビリ計画3	予習：アスレティックリハビリテーションについて調べておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)
15	まとめ	予習：指定されたテキストの箇所を熟読しておくこと(1時間) 復習：配布物の内容を熟読しておくこと(1時間)

《専門科目》

科目名	テーピングマッサージ演習				
担当者氏名	片井 忠				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

テーピングとマッサージの実技が中心の内容です。

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

解説の時間を設ける。

《授業の到達目標》

トレーナーとして必要不可欠な技術であるテーピングとマッサージの習得を目標とします。

《成績評価基準》

授業内取組60%、実技テスト40%

《成績評価の方法》

実技 40%  
授業の取組 60%

《参考図書》

公認スポーツ指導者養成テキスト（公財）日本スポーツ協会、  
スポーツマッサージ（増田雄一、新星出版社）

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	スポーツマッサージの理論	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
2	実技 下腿～大腿後部	予習：下腿～大腿後部の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
3	臀部～腰背部	予習：臀部～腰部の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
4	肩甲帯～肩周辺	予習：肩甲帯～肩の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
5	頸部～腕部	予習：頸～腕の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
6	下腿～大腿前部	予習：下腿～大腿前部の筋肉について解剖学を勉強しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
7	まとめ	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
8	実技テスト	
9	テーピングの理論	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
10	実技 足首	予習：足首の障害について予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
11	足部・シンスプリント	復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
12	膝部・肉離れ	予習：肉離れについて予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
13	肩・肘	予習：肩・肘の障害について予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
14	手首・指	予習：手首・指の障害について予習しておく事（45分） 復習：今回の授業で学んだ事を復習しておく事（45分）
15	まとめ（実技テスト）	

《専門科目》

科目名	健康運動実践指導演習				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

(公財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」の資格対策講座です。資格取得には実技および筆記試験の合格が条件となります。受験希望の学生は必ず履修してください。実技試験では、陸上/水中いずれかを選択し、レジスタンス運動(2種目)と有酸素運動(エアロビックダンス/水中ウォーキング)の5分間の運動指導の完成を目指します。筆記試験対策では、90分40問に対応しうよう、理論を理解していきます。

《授業の到達目標》

1. 陸上または水中で、課題として定められたレジスタンス運動を遂行できる
2. 陸上または水中で、課題として定められた有酸素運動を遂行できる
3. 健康運動実践指導者として、必要な知識を身に着けることができる

《成績評価の方法》

課題 50%  
授業の取組 30%  
その他(小テスト) 20%

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」(公財)健康・体力づくり事業財団

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

課題・小テストはその都度、解説の時間を設けます。

《成績評価基準》

課題では、実技・筆記試験対策の出来栄や到達度合をみて総合的に評価します(50%)。また、受講状況や、取り組む姿勢を授業への取り組みとして評価します(30%)。その他、筆記試験模擬問題として小テストを行い、理解度を評価します(20%)。

《参考図書》

「健康運動実践指導者試験」/桑野純一他、日本能率協会マネジメントセンター

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション健康運動実践指導者とは	予習:健康運動実践指導者の実際についてまとめておくこと(60分) 復習:今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
2	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
3	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
4	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
5	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
6	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
7	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
8	実技試験対策 陸上運動、水中運動	予習:実技試験で述べるキューイングをまとめておく(60分) 復習:実技試験内容を練習する(90分)
9	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
10	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
11	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
12	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
13	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
14	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)
15	筆記試験対策	予習:健康運動実践指導者養成用テキストを熟読し整理しておくこと(60分) 復習:授業で学んだ内容を復習しておくこと(90分)

《専門科目》

科目名	健康運動実践指導演習				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

健康運動実践指導者の資格試験に合格するために、実技試験対策では、レジスタンス運動の2種目（2分間）と有酸素運動であるエアロビックダンス（3分間）の5分間の運動指導を完成させる。また、筆記試験対策では、練習問題集と過去問題を解きながら資格試験に慣れるとともに自己の知識量を確認し、テキストと照合し復習に取り組む。

《授業の到達目標》

（公財）健康・体力づくり事業財団認定資格である「健康運動実践指導者」の対策講座です。資格取得の条件である実技試験および筆記試験の合格を目標とします。合格できるように、1年次に学修した健康体力づくりの基礎理論の復習をしながら、2年次の新しい分野を理解することができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験 40%  
実技試験 40%  
授業の取組 20%

《教科書》

「健康運動実践指導者養成用テキスト」（公財）健康体力づくり事業財団）

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

当財団の実技試験終了までは実技試験の対策を行う。毎回課題を提示し授業では課題の修得確認を段階的に行う。また、実技試験終了後から筆記試験対策に取り組み、実技同様練習問題を課題とし提示し授業では解説をしていく。

《成績評価基準》

実技模擬試験では、学修過程を見ながら完成度で評価し、筆記模擬試験では、最終のまとめの評価で総評する。当財団が掲げている「自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者」としての指導スキルを身につけることができる。また、健康や体力の維持増進、安全に関わる基礎知識および指導理論を理解することができる。

《参考図書》

「健康運動実践指導者試験」桑山純一他、日本能率協会マネジメントセンター

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	オリエンテーション	資格概要説明を聞いて実技試験DVDを確認しておくこと。(1時間) 今回の学びを試験対策として動作の再確認をする。(1時間)
2	実技試験対策 実技試験について	実技5種目が規程どおりできるように動作の確認をしておくこと。(1時間) 正しくない動きを指摘された動作を修正する。(1時間)
3	・レジスタンス運動(2分間の動き)	正しい動きになるよう修正しておくこと。(1時間) 指導に必要な要点を確認し、口頭で述べるようにする。(1時間)
4	・エアロビックダンス(3分間の動き)	正しい動きになるよう修正しておくこと。(1時間) 指導に必要な要点を確認し、口頭で述べるようにする。(1時間)
5	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	レジスタンス運動での2分間の動きと指導ができるよう記録しておくこと。(1時間) 指摘を受けた箇所を修正し、スムーズな指導ができるようにする。(1時間)
6	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	エアロビックダンスでの2分間の動きと指導ができるよう記録しておくこと。(1時間) 指摘を受けた箇所を修正し、スムーズな指導ができるようにする。(1時間)
7	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	正しい姿勢・動き、タイミング、キューイング指導ができるようにする。(1時間) 姿勢・動き、タイミング、キューイング指導ができるように復習する。(1時間)
8	・レジスタンス運動・エアロビックダンス	指導者としての見本・指導ができるようにする。(1時間) 実際の実技試験のための指導ができるように復習する。(1時間)
9	筆記試験対策 筆記試験について	筆記試験のためにスポーツ科学の基礎を確認しておくこと。(1時間) 養成用テキストをもとに運動生理学を中心に復習する。(1時間)
10	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。(1時間) 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。(1時間)
11	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。(1時間) 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。(1時間)
12	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。(1時間) 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。(1時間)
13	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。(1時間) 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。(1時間)
14	筆記試験対策および解説・模擬試験および解説	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。(1時間) 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。(1時間)
15	まとめ	与えられた問題を解答できるように養成用テキストを熟読しておくこと。(1時間) 不正解の問題を復習する。また、養成用テキストを確認する。(1時間)

《専門科目》

科目名	エアロビックダンス				
担当者氏名	荒川 優子				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

エアロビックダンスの基礎理論、プログラムづくり、指導者としての正確な動作、実践的な指導テクニック、グループエクササイズ指導者としての心構えなどを習得できます。  
実務歴：フィットネス施設にて、運動と栄養指導を行う。エアロビックダンスなどのスタジオレッスンも担当。ADI・健康運動指導士保有。

《授業の到達目標》

エアロビックダンスとは、健康・体力づくりのためのエクササイズであり、老若男女、誰もが楽しんで参加できる、音楽を用いたポジティブな運動です。  
エアロビックダンスについて説明できるようになる。グループエクササイズの指導者として人前に立つことができるようになる。エアロビックダンスインストラクター（ADI）の資格を取得する。

《成績評価の方法》

筆記試験	%	レポート	%
課題	%	実技	100 %
授業の取組	%	その他（	） %

《教科書》

「ADBI・ADI のためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論」（社）日本フィットネス協会

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

講評（フィードバック）の時間を設ける。

《成績評価基準》

ADI 検定の合格基準に準ずる。  
インストラクターとして正確な動作ができる。的確な指示・安全面の考慮ができる。指導の循環ができる。

《参考図書》

「GFI のためのフィットネス基礎理論（改訂対応版）」、「GFI のためのグループエクササイズ指導理論」（社）日本フィットネス協会

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	エアロビックダンスインストラクター(ADI)認定について	予習：教科書「第2章」熟読（2時間） 復習：実技の復習（2時間）
2	エアロビックダンスエクササイズ指導理論(基本の動き)	予習：教科書「第3・4章」熟読（2時間） 復習：実技で確認（2時間）
3	エアロビックダンス動作（ローインパクト）	予習：実技・動作の確認（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
4	エアロビックダンス動作（ローインパクト）	予習：実技・正確な動作（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
5	エアロビックダンス動作（ハイインパクト）	予習：実技・動作の確認（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
6	エアロビックダンス動作（ハイインパクト）	予習：実技・正確な動作（2時間） 復習：実技で復習（2時間）
7	プログラムづくり（ADI試験対策）	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：修正・チェック（2時間）
8	プログラムづくり（ADI試験対策）	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：修正・チェック（2時間）
9	プログラムづくり（ADI試験対策）	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：修正・チェック（2時間）
10	エアロビックダンスエクササイズ指導理論(歴史～プログラム)	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：教科書「第2・3・4章」熟読（2時間）
11	エアロビックダンスエクササイズ指導理論(指導法・環境整備)	予習：プログラムをつくる（2時間） 復習：教科書「第5・6章」熟読（2時間）
12	ADI 試験対策演習	予習：実技検定の練習（2時間） 復習：実技検定の練習（2時間）
13	ADI 試験対策演習	予習：実技検定の練習（2時間） 復習：実技検定の練習（2時間）
14	ADI 試験対策演習	予習：実技検定の練習（2時間） 復習：実技検定の練習（2時間）
15	ADI 試験後の実演（1学年を対象に実技指導）	予習：指導プログラム作成（2時間） 復習：プログラム修正（2時間）

《専門科目》

科目名	水泳コーチ論				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

水泳コーチの基礎理論として、水泳競技の特性および歴史、バイオメカニクス、生理学、心理学などを学ぶ。また、選手育成のために競泳科学やコーチング、専門的トレーニング、コンディショニングづくりについて競泳経験と照合しながら習得する。さらに、コーチとしての役割や安全管理を学習するためにコーチに必要な法律やプールの管理法、応急手当などについても学ぶ。この科目は水泳コーチ3資格の指定科目である。

《授業の到達目標》

水泳指導者を目指す者として、水泳の特性を理解するとともに、指導法および安全管理について理解することができる。また、選手の育成にかかわる専門的知識の把握に努め、競泳競技規則の理解と審判法を身につけることができる。

《成績評価の方法》

レポート 100%

《教科書》

「水泳コーチ教本」（公財）日本水泳連盟  
「競泳競技規則競技役員の手引き」（公財）日本水泳連盟

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

項目ごとにレポートを課し、その内容を確認しながら解説を行う。

《成績評価基準》

水泳の特性をはじめ、指導法および安全管理について理解することができる。また、競泳の専門的な知識を身につけ、競技大会で重要な競泳競技規則や審判法を理解しまとめることができる。

《参考図書》

適宜、プリントを配布する。

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	水泳の特性と歴史	水泳・水中運動時に受ける身体的作用を考え、特性としてまとめておくこと(2時間) 今回の学習内容をまとめておくこと(2時間)
2	水泳技術の構造 1	4泳法の上肢・下肢・全身の動作を経験から振り返り、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
3	水泳技術の構造 2	4泳法の上肢・下肢・全身の動作を経験から振り返り、まとめておくこと(2時間) 4泳法の動作をまとめておくこと(2時間)
4	水泳の生理学	水泳環境による体内の変化・影響をまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
5	水泳の心理学 1	水泳の様々な環境における心理的变化を考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
6	水泳の心理学 2	水泳の様々な環境における心理的变化を考えておくこと(2時間) 水泳にかかわる心理をまとめておくこと(2時間)
7	選手育成に必要な栄養学 1	競泳選手の経験からトレーニング場面に応じた栄養摂取を考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	選手育成に必要な栄養学 2	競泳選手の経験からトレーニング場面に応じた栄養摂取を考えておくこと(2時間) 場面・状況に応じた栄養摂取についてまとめておくこと(2時間)
9	水泳の医学 1	自身の故障や傷害について振り返り、その原因を考えておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	水泳の医学 2	水泳運動者の故障や傷害について振り返り、その原因を考えておくこと(2時間) 故障や傷害についてまとめ、リハビリ法までおくこと(2時間)
11	競泳のコーチング 1	過去に様々な場面でコーチから受けた指導を振り返り、まとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	競泳のコーチング 2	過去に様々な場面でコーチから受けた指導を振り返り、まとめておくこと(2時間) コーチからの指導が選手に与える影響を復習しておくこと(2時間)
13	競泳のトレーニング	過去に経験したトレーニングを振り返り、目的別に考えてまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	競泳のコンディショニング	体調の維持管理で気をつけていたことをまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	コーチの役割と安全管理	競泳選手にとってのコーチの存在意義を考えておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	水泳コーチ法演習				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	演習	単位・必選	1単位・選択	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP3 スポーツ指導の実践力を有する。			

《授業の概要》

水泳（競泳）のコーチになるために生理学やバイオメカニクス、心理学などのスポーツ科学を理解するとともに、選手の育成・指導に応じたコーチングの知識や技量を高め、トレーニングやコンディショニングの指導法として活用できるように学習する。なお、この科目は、水泳コーチ3資格の指定科目である。

《教科書》

「水泳コーチ教本」（公財）日本水泳連盟

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

適宜、レポートあるいは課題を課すと同時に、指導実践において振り返る。

《授業の到達目標》

水泳（競泳）選手を育てる指導者になるために、競技者（タレント）の発掘・育成・指導に必要な競泳の科学的最新理論を理解するとともに、水泳選手の育成のトレーニング法とコーチング法を理解することができる。また、選手の指導現場およびコーチを取り巻く環境資源（コーチング文脈）の適用でコーチングの幅を広げ、常にプレーヤーズセンタードの実践指導を行えるようになる。

《成績評価基準》

水泳（競泳）選手を育てるために必要な競泳のスポーツ科学を理解し、レポートにまとめることができる。また、水泳選手の育成のトレーニング法とコーチング法の指導を実践することができる。

《成績評価の方法》

レポート 50%

課題 20%

実技 30%

《参考図書》

「健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動」出村慎一監修、杏林書院

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	水泳トレーニング科学1 (水泳生理学とバイオ)	プール入水前に、トレーニングによる生理学的変化を予測し、4泳法の動作を振り返ってまとめておくこと(2時間) 今回の学習内容を復習しておくこと(2時間)
2	水泳トレーニング科学2 (水泳生理学とバイオ)	プール入水前に、トレーニングによる生理学的変化を予測し、4泳法の動作を振り返ってまとめておくこと(2時間) 生理学的変化をまとめ動作を確認しておくこと(2時間)
3	水泳トレーニング科学3 (水泳生理学とバイオ)	プール入水前に、トレーニングによる生理学的変化を予測し、4泳法の動作を振り返ってまとめておくこと(2時間) 生理学的変化をまとめ動作を確認しておくこと(2時間)
4	水泳トレーニング科学4 (水泳生理学とバイオ)	プール入水前に、トレーニングによる生理学的変化を予測し、4泳法の動作を振り返ってまとめておくこと(2時間) 生理学的変化をまとめ動作を確認しておくこと(2時間)
5	水泳のトレーニング法と コーチング法1	過去のトレーニング法を振り返り、どのような効果があるのかまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
6	水泳のトレーニング法と コーチング法2	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
7	水泳のトレーニング法と コーチング法3	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
8	水泳のトレーニング法と コーチング法4	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
9	水泳のトレーニング法と コーチング法5	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
10	水泳のトレーニング法と コーチング法6	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
11	水泳のトレーニング法と コーチング法7	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
12	水泳のトレーニング法と コーチング法8	トレーニング法とコーチング法を実践し、結果として得られたことを考察しておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
13	水泳のコーチング法の実 践1	選手の育成を想定し、コーチング法を考えてまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
14	水泳のコーチング法の実 践2	選手の育成を想定し、コーチング法を考えてまとめておくこと(2時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)
15	水泳のコーチング法の実 践3	選手の育成を想定し、コーチング法を考えてまとめておくこと(2時間) これまでの授業で学んだ内容を復習しておくこと(2時間)

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	星子 和夫				
授業方法	演習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。			

《授業の概要》

本学科行事への参加はもちろん、学外でのレクリエーション関連活動やボランティア活動へ楽しみながら積極的に「見るスポーツ・するスポーツ・支えるスポーツ」テーマに参加していきます。そのことで、学生をはじめ、子どもや家族、成人、高齢者などの対象者に対し、どのように接することで共に喜び楽しみ、心を元気にすることができるのかを考え、計画および運営ができるように学習する。福祉健康体操にも取り組みます。

《授業の到達目標》

「心を元気にする」を目標としたレクリエーション活動をもとに、スポーツの視点からスポーツレクリエーションの推進を目指す。子どもから成人、障がい者に対する「支えるスポーツ」を実践しながら、地域住民と学生とが交流し、喜びを味わえるレクリエーション活動の体験を通して、今後の生涯スポーツ・生涯学習の振興とレクリエーション活動活性化の一助になることを目標とする。

《成績評価の方法》

課題 80%  
授業の取組 20%

《教科書》

適宜プリントを配布する。

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

各イベントごとに振り返り、問題点を提示・提案し考えることができるようにする。

《成績評価基準》

心を元気にするレクリエーション活動を達成するために、楽しみながら事業に参加し、あるいは指導してスポーツレクリエーションの魅力を肌で感じ、まとめることができる。また、イベントに対する企画・運営についても順序立ててまとめ、情報を共有し計画的に安全に事業を実行することができる。さらに、実行後に振り返り次のイベントに活かすことができる。

《参考図書》

「ニュースポーツ百科」大修館書店

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス、後期計画について	後期の計画を立て、各イベントの役割を考えておく(1時間) 計画を振り返り、ゼミ生の一員としての役割を自覚しておくこと(1時間)
2	福祉健康体操について	前期をもとに運動内容を考え、準備しておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
3	福岡市スポーツフェスタ ベース計画について	昨年度の資料をもとにテーマおよび内容を考え、準備しておくこと(1時間) 様々な意見をまとめて、より良いイベントになる方法を考えておくこと(1時間)
4	福祉健康体操	対象者に適した運動・ゲームを前期の指導をもとに考えておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
5	福岡市スポーツフェスタ 指導参加について	計画の中で、参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと(1時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(1時間)
6	福岡市スポーツフェスタ 指導参加について	計画の中で、参加者に対しての立ち居振る舞いを考えておくこと(1時間) PDCA の内容を考え、次のイベントに活かせるように復習しておくこと(1時間)
7	秋の公園で遊ぼうについて	パンブーダンスをレク財とし、計画を立案し調べておくこと(1時間) 体験してサポート法を考えること(1時間)
8	秋の公園で遊ぼうについて (指導参加)	パンブーダンスのロールプレイをしておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
9	秋の公園で遊ぼうについて (指導参加)	パンブーダンスのロールプレイをしておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
10	福岡市障がい者スポーツ 大会について	対象者の特徴について考え、サポート行動をまとめておくこと(1時間) 自分の役割や行動を振り返り、次に活かせるように復習しておくこと(1時間)
11	福岡市障がい者スポーツ 大会について	対象者の特徴について考え、サポート行動をまとめておくこと(1時間) 今回のイベントで学んだ内容を振り返っておくこと(1時間)
12	シーサイドももち駅伝について	安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
13	シーサイドももち駅伝について	安全を第一に、自分の役割や行動について考え、まとめておくこと(1時間) 今回の授業で学んだ内容を復習しておくこと(1時間)
14	福祉健康体操	対象者に適した運動・ゲームを考えておくこと(1時間) 対象者のサポートをして振り返ること(1時間)
15	ゼミナール活動のまとめ	後期での学びをまとめておくこと(1時間) これまでに学んだ内容を復習しておくこと(1時間)

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	高木 富士男				
授業方法	演習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウェルネスの貢献を有する。			

《授業の概要》

スポーツイベント等に参加するとともに、自らもスポーツイベントの企画運営に取り組む。  
また、論文提出に向けた研究・調査・文作成を行う。

《教科書》

プリントを配布する

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

《授業の到達目標》

1. スポーツ活動を自ら楽しみ、短期大学卒業後も障がいの有無にかかわらず多くの方のスポーツをサポートできる。
2. 健康・スポーツに関する疑問や課題を発見し、その解決に向けて調査・考察することができる。

《成績評価基準》

課題提出30%、授業の取組20%、卒業研究の取組（論文作成・発表）50%

《成績評価の方法》

課題 30%  
授業の取組 20%  
その他（卒業研究の取組） 50%

《参考図書》

大学生学びのハンドブック [ 5訂版 ] 世界思想社

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	予習：福祉および障がい者に関するニュースを調べる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
2	ポートフォリオ作成	予習：夏期休暇の各自の取り組みを振り返りまとめる（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
3	スポーツイベントの企画	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
4	スポーツイベントの企画	予習：スポーツイベントの企画を考える（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
5	スポーツイベントの実践①	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
6	スポーツイベントの実践	予習：スポーツイベントの準備をする（60分） 復習：スポーツイベントを振り返り課題に取り組む（60分）
7	卒業論文について	予習：先行研究（論文）を検索し一読する（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
8	卒業論文の作成	予習：先行研究（論文）を検索し一読する（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
9	卒業論文の作成	予習：各自の作成論文を読み直す（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
10	卒業論文の作成	予習：各自の作成論文を読み直す（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
11	卒業研究発表スライドの作成	予習：各自の作成論文を読み直す（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
12	卒業研究発表スライドの作成	予習：各自の作成スライドをチェックする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
13	卒業研究発表（準備）	予習：発表のセリフをチェックする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
14	卒業研究発表	予習：発表準備をする（60分） 復習：授業を振り返り課題に取り組む（60分）
15	ポートフォリオ完成 後期のまとめ	予習：後期の取り組みをまとめる（60分） 復習：1年を振り返り課題に取り組む（60分）

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウェルネスの貢献を有する。			

《授業の概要》

スポーツイベントや指導実践を通して、スポーツに携わる指導者としての基本的な能力や態度の育成を目指します。主に、キッズスポーツのイベント参加や実践を行います。また、資料作成やプレゼンテーションを行い、社会人としてのスキルも身に付けます。  
「JFA公認キッズリーダー」を取得済みまたは取得予定である方が望ましい。

《授業の到達目標》

1. スポーツイベントや指導実践を通して、積極性、協働性を身に付ける
2. 様々な場面での指導法について考える力を身に付ける
3. スポーツに携わる人材として、相応しい知識、態度を身に付ける

《成績評価の方法》

課題 20%  
実技 30%  
授業の取組 50%

《教科書》

使用しない

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

提出課題は評価・フィードバックをした上で返却します。

《成績評価基準》

1. スポーツイベントや指導実践の活動に、積極的かつ主体的に参加することができる
2. 場面に応じた行動や指導を行うことができる
3. プレゼンテーションのスキルを身に付け、コミュニケーションをとることができる

《参考図書》

適宜紹介する

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	ガイダンス	後期の活動について計画する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
2	イベント準備	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
3	イベント準備	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
4	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
5	イベント準備	自身の役割を確認し、準備・実行する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
6	イベント準備	自身の役割を確認し、準備・実行する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
7	イベント準備	自身の役割を確認し、準備・実行する(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
8	イベント振り返り	イベントでの自身の活動をまとめる(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
9	指導案作成・模擬指導	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
10	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
11	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
12	指導実践	指導現場での行動・指導法について考える(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
13	イベント準備	必要な情報を集める(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)
14	イベント活動	活動に備える(30分) 今回の授業内容の復習(1時間)
15	後期まとめ	後期の活動を振り返り、まとめる(1時間) 今回の授業内容の復習(1時間)

《専門科目》

科目名	ゼミナール				
担当者氏名	小川 茜				
授業方法	演習	単位・必選	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・通年（後期）
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP1 質の高いスポーツ指導者としての人間性、社会性を有する。 1-DP4 地域社会へのウエルネスの貢献を有する。			

《授業の概要》

「キッズスポーツを支える人材」を目指し、学内外でのスポーツイベント、ボランティアに積極的に関わっていきます。学内の子ども向けイベントにおいて実行委員会として企画立案・指導を行います。積極的、主体的に取り組むこと、また責任感ある行動を期待します。  
楽動塾、キッズスポーツフェスティバルの実行委員会として活動します。

《授業の到達目標》

1. キッズスポーツ、幼児体育を支える人材および社会人として相応しい知識、態度を身に付ける
2. 幼児体育や心理学、スポーツ心理学などの専門知識と実践経験を得る
3. スポーツ指導に必要な積極性、協働性、プレゼンテーション力、文章力を身に付ける

《成績評価の方法》

筆記試験 50% レポート 50%  
課題 50% 実技 50%  
授業の取組 50%  
その他 ( ) %

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

各提出物は評価・フィードバックをした上で返却します

《成績評価基準》

1. 専門的知識や態度、指導力が身に付いている
2. 社会人としての教養が身に付いている

《参考図書》

「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、「就職活動ハンドブック」西短進路指導部

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
2	イベント準備	自身が担当する役割を進める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
3	イベント準備	自身が担当する役割を進める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
4	指導実践	就職活動の準備や一般常識問題の練習(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
5	イベント準備	自身が担当する役割を進める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
6	イベント準備	自身が担当する役割を進める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
7	イベント準備	自身が担当する役割を進める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
8	イベント振り返り	イベントでの自身の活動をまとめる(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
9	個人面談	進路に関する準備(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
10	講読	プレゼンテーションの準備(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
11	イベント準備	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
12	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
13	講読	プレゼンテーションの準備(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
14	イベント準備	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)
15	指導実践	必要な情報を集める(30分)・今回の授業内容の復習(30分)

《専門科目》

科目名	卒業研究				
担当者氏名	星子 和夫、高木 富士男、小川 茜、坂元 瑞貴				
授業方法	演習	単位・必修	2単位・必修	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに沿って 重点的に身につける能力		1-DP2 スポーツ指導に関する理論的な専門知識を有する。			

《授業の概要》

本学科での学習の総まとめとして取り組む授業であり、ゼミナール形式で行う。指導教員のもと、それぞれが研究テーマを設定し課題解決に取り組み、まとめ、最後に卒業研究発表会にて発表を行う。  
卒業研究は授業時間だけ取り組むものではなく、また授業時間だけでは終わらない。問題意識を常に持ちながら課題解決に向けて各自の卒業研究を進めること。

《授業の到達目標》

1. スポーツ・運動の指導法・健康体力づくり・身体に関わる専門的能力・知識をゼミナール形式の演習を通して身につけることができる。
2. 論理的に文章を作成できる。
3. 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

筆記試験 % レポート %  
課題 % 実技 %  
授業の取組 %  
その他（指導教員の裁量による） 100%

《教科書》

なし

《課題(試験、レポート等)に対するフィードバックの方法》

卒業研究に関する発表内容や提出資料は、適宜各教員の添削を受け返却される。卒業研究発表会の内容は学科教員によって評価され、後日最優秀賞および優秀賞の研究を選出し発表される。

《成績評価基準》

1. 各教員に与えられる課題に取り組むことができる
2. 卒業研究発表会に関する要旨、発表用パワーポイント、抄録をゼミ教員の指導のもと作成し、指定期日までに提出できる

《参考図書》

「大学生学びのハンドブック（3訂版）」世界思想社編集部（編）世界思想社、その他適宜紹介

《授業計画》

週	授業のテーマ	予習内容(時間)・復習内容(時間)
1	卒業研究についての理解を深める	問題意識や興味、研究テーマ、研究目的を考える（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
2	研究テーマの検討	興味のある分野や自身の疑問をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
3	研究テーマの検討	興味のある分野や自身の疑問をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
4	先行研究を調べる	研究テーマに関連する先行研究をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
5	先行研究を調べる	研究テーマに関連する先行研究をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
6	先行研究を調べる	研究テーマに関連する先行研究をまとめる（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
7	テーマに基づき研究を進める	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
8	テーマに基づき研究を進める	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
9	テーマに基づき研究を進める	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
10	テーマに基づき研究を進める	文献調査、アンケート、実験等、各自の研究を進めるための取り組みを行う（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
11	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
12	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
13	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
14	要旨、発表用パワーポイント、抄録の作成	提出する資料（要旨、発表用パワーポイント、抄録）を作成する（30分）・今回の取り組みの復習（30分）
15	卒業研究発表会	卒業研究発表会に向けて発表練習を行う（30分）・発表会での指摘を受け、抄録の作成、修正を行う（30分）